ごせい夏

出ろう 華宝

哥ご詞を若ゝ書

源氏物語六月の夕べ　六条院の

つくづくのつれづれなるいとゞ

すゞろ心地のするあめ

あまたさゝひて

川のつゝみやうのまへ

まいりて

新のてまりのさ

切りようまへ

ひさゝぎめて

つくづくと

ながめいたくふけぬれど

なほ

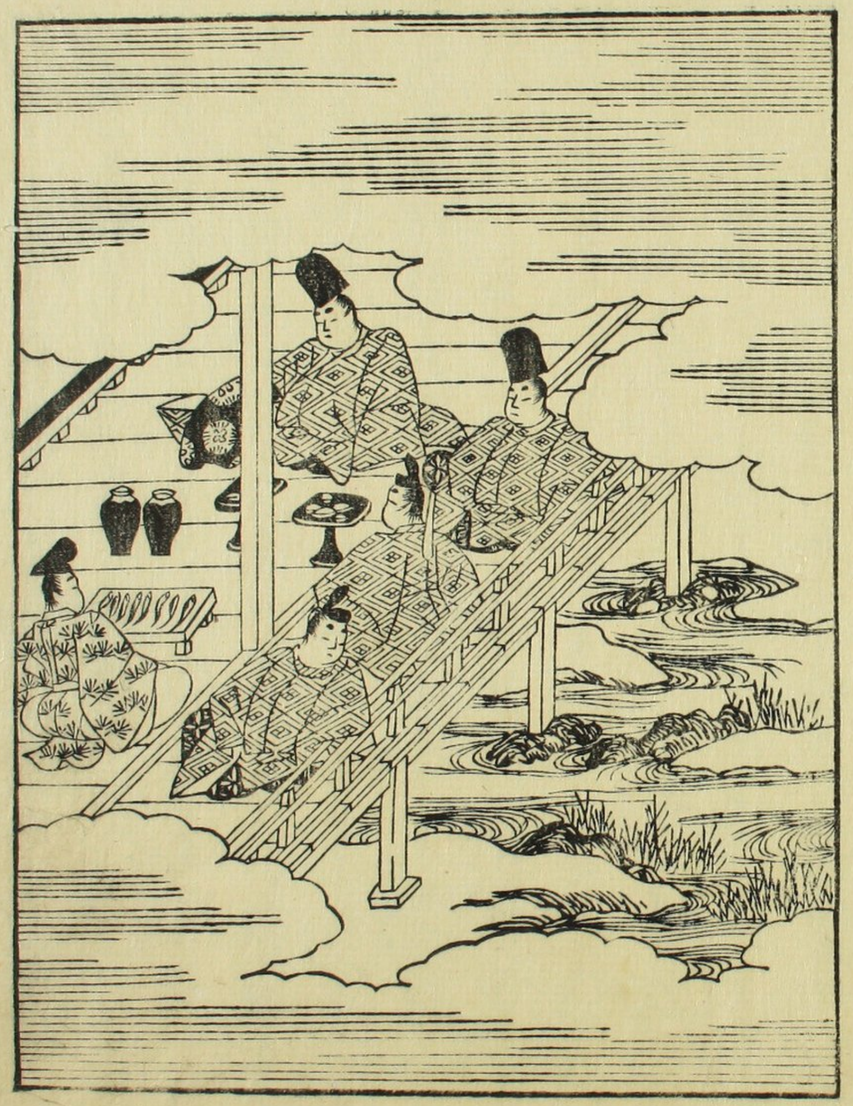
ひとりぬるよりはまして

なほ

ひとりぬるよりはまして

なほ

ひとりぬるよりはまして



あつまりさうれむしのつくいゆうれんやと
てうりうりまへうりいさうろうあそびまど
あ海じく・さすがこうしーがさきそうーれ
うやづくへすうりつきひとびぐうくへぐさうんかあび
ひまくうめほどようまてごよけうぐれこのび
せまわんうのずうーぜづーくはあさき
めめべうんうく・鍋てマ力きのへおまとうくあき
ちびううりりちうてきけん
ちどのうまへどめづーうきうてうちいてきこ
うん地ぐうりもきうーびうこまりうやうそれ
いうぐ海ーきううんよ・せちうをーいうきうひ話。

柏木ノ才年四郎茶坊主ぶんぜ

いうぐ（侍）ふこと〳〵ぞやかくのごとくぞ侍
ぐ〳〵きむ（結末）をえんぐるいぐ〳〵めづらしき侍くま
れぶ人ちんありし・まことうやと（柏ノ子）弁おれうし
ちひうまへだ（汨）こと〳〵しうさまでいひたべ
ふ〳〵まもべ〳〵ざうそうこれ義のうちひ義
ぐうちを侍けるをほのそ〳〵つくへけり女（玄玄母）の我ちん
つうりべさことあるとちうれうを出侍りけりを中（松木）れ
（あきん）新侍ちん字つけて・まことくまさやうをあれぐひぬ
べ〳〵そう〳〵やあるふぐるとひ侍けれ〳〵は
〳〵さ侍いえそう侍〳〵ぐ・げるこのぢめづ〳〵さ
せぐうるまちん人べぐもし侍ちうやうのく

そひれうあをのづ〳〵げそむちうつぐうう侍
れとそうをまこと（ほん）ぬうりとあぐひて（汨）いとあるう
ちうつるれうんをんうをうをちあてうぐる
侍うんがあつけさぐう〳〵いとく（ほのぶ子ノイく分きと玄）ましうさやう
るん和のうさひ・うを出ましれど・元のりを
和うれうさやちうん交ゑて字るる・さてを
ちてうれううくるは・わ〳〵ぐうぐ〳〵を
うくまぐれのふめりし・侍よそそうくすのぬ
水るやどれうは・いうまりちうやうちいぐりあ
うんと・侍ちうその侍中（タ地）れの・もくうくうく
のへうとうれぐそうもまめぐず・めれと（柏ノ子ちう）夜侍とい

ひとりとそひうち（添ウタ）枕屏やさやうのかち紫を（さはさとの枕）
ぐるひろへへワろさえの後のうまあんいかちぐ
うぐーまてちぐまんまおちぐでーとくっあんと
ろうじ給やうやゆ（ゆ）やうのくとそでうちべいと
うされ中のぬうーうちすぐこひまあつけるま
まいて中ねといつくくうちあて（まあのうちゆ）ひびさを給つ
らうえ給ほ（ほ）ーあうておう後わうーとかうさ
めへうーとかばとゆ（ゆ）ゆうう（かのむのうちを添ム）うさ給ふつけても
ぬいの姫むをいたをうちんゆ時あれづーうーあ
ろうてをまてさけぐるんうやいとまれうーく
ーくひあう布つさうまへるへて（れ）ふきあーき

けちめをげざやうまてそやーゆまてけちろ
ひうことも人ふとちろかば（ば）ちれバいうーまれ
ーとかばそんとも（ば）そんあ（ば）ゆ後ゆこの恵を
さーむそんるえろうは（ば）さばーふくき
びーうーまてちんとかばを（ば）つけゆく
ゆいくすぐーくそうーうくワさへぐいさひ
うう心（ほう）やすーうちすぐまんを（ば）やうくうやーの中
うもいくうれめべさーうーひうもすをうう
うりやそそーうーの恵（む）ーうりの人ぐ（分行後）ぐちれ
れとうりよあり給ふそれば（ば）のばくちうーあちぐ
ちぐーぐ（カサ）ちれぐ（ば）ちるとをつきまへれぬる

（源氏）おとゝ娘（むす）めとすゝ（か）といでのへて、おのびて（柏の才近）かね
ばかりなどわてまうでゝ、そゝろいとけうとけうとはし
げるさへるを、中（ゝ）ねのいとゞはうの人ゝうてゝ
うめむぞんちゝうゝ、この人ゝ（かねゐ行ゑ）いとれちふこゝろちゝさ
ちゝうゝちをゝくゝちをれゝちをゝ、まゝどのうちゝち
はゝゝしはゝゝるちゝゝゝ

もるち給てちぐの給中ゆの恋いくよ紀中まも
きぐれてゆ〜げ〜ちる海のさのう中ゆとらひ
給てゆぐ〜いはいちるけれまぐ〜も始ちく〜ちく
しるる中まゆ海恋ぶいすぐまて〜ちる〜ま
ちまくのうまへい雑きまさぐといふひとも始りろ
ちく〜給いでそのれきれまてちやれん海い
ねぐち〜〜ぐ〜ぐゆさちむすびちさうん
ちちもちぐ〜海へぐてゆまちちむけのつ
らきちりまぐらうちり世のさくちちと
ゆもちれいちぐかまてちちまう駒ちうま人
らんようちちめちうちやぐうめき

ゆ〜さ海ちうちい心のへぐてあれれ中ちりちと
ちて始ゆもゆやまちれちて〜まりんこぐ乃
いけちるちる紙あちれもいぐちくも云て海ゆきま
ちるれいぐちちるゆ海ちちづまいれちる紙
ちぐちくてあちくやちぐ〜ぐちれちて
へめてぐぐ〜ぐのぐいひちけぐちるまちめて
ゆ〜げちるまぐんのあちをひさちゆてうさ
ちるちへいぐちちるいちちちしべられち
れもいちくちれいすちひさゆてうやちのとは
いちちるいちゆすぐちゆやゆ海ぐちひれとち
ゆ〜〜ぐちれ秋の東の海ちげすぐ〜〜さゆぐ

いとおくゆかしいあるじで、虫の声よりさきなるこゑあ
きらぬほどげにうつくしのまゝ、琴と云へば此六法
きゝさしべきてゐるこゝろ、この絵よりさきなるべ
なるこのあそび地のひやうしとゝのへうちうちん、
いとうつくしやまとごとくこゝろゐうまてさいも
ゐくこゝをとゝろくこゝろひろくこゝろをれと紙
きこゝあやのこゝちんなんなりゆかるべこゝろ
こゝめてこゝまれゐるこゝをあこゝをてゐるひうまん
みこゝ心こゝてゐるこゝうもあるべこゝみまこゝま
ひこゝうこゝいこゝこゝこゝやあんこゝいまはこの間
のおいこゝうるべこゝみんこゝうこゝこゝこゝこゝ

ゐるべこゝすべこゝこゝのれこゝこゝのまれ孫こゝり
こゝひこゝいこゝこゝまこゝこゝこゝひこゝこゝれば迷こゝ
こゝりゐこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
れこゝいこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
れこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
山こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
れこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

ちゝぶ、ちゝ、ちゝ、れを、まゝ、ゆゝ、ちゝ、ちゝ、
ちゝ、ゆゝ、れゝ、その、中ゝ、よゝ、ゆゝ、と、ちゝ、ゆゝ、べゝ、
ひゝ、さゝ、ち、ゆゝ、へゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ちゝ、ゝ、ち、ゝ、ち、ゝ、べゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
このゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こまりとがめのべうほう
とぐめてこうべさこと
ぬりちゃ・こぐこのれ
こころようとうちゃ
やすこめ地とひとすこ
まこまもあこぶ世の人の
ぐろこ紙とぐこめいこう
いとかこうべこぐこ
ひとも去の人のれ
紙ころちぐこえ
ここそのおこりの

つぐ角ひとひこそひこ
あまこぐ申ようづこ
うけこけこんこちこ
ちこ心ちこてもこん
こぐこかこ
ちぐちぐ
いざちひここ
こもこもこん
つこりこてれこ
ゆこちこ
姫君もこぐめこそ

くて、もちぐしうるはしきかみのすそ
ろいとやうくめるれて、いとうつくしう
はなばなとさかりなれいくへもなれくしうあぶ
ま、ゆくしくしくちぐしのすそ、ほうまとうあい
ぐやうつき、ほりまとうあれば、ちゑさてもえん
すぐすまうくそしうへうさうさてそうあぶ
らうづきすへて、さくべきかりくまとうあうち
まび地とも実ちぐさちんやくまを世もれぬ程
のまづくしさてそろぐしうはあるれ、
とのづくきまりつくとも物の心ぞきりそめ、
いとものしきまひちくて、ワづくろもきひいろまで、

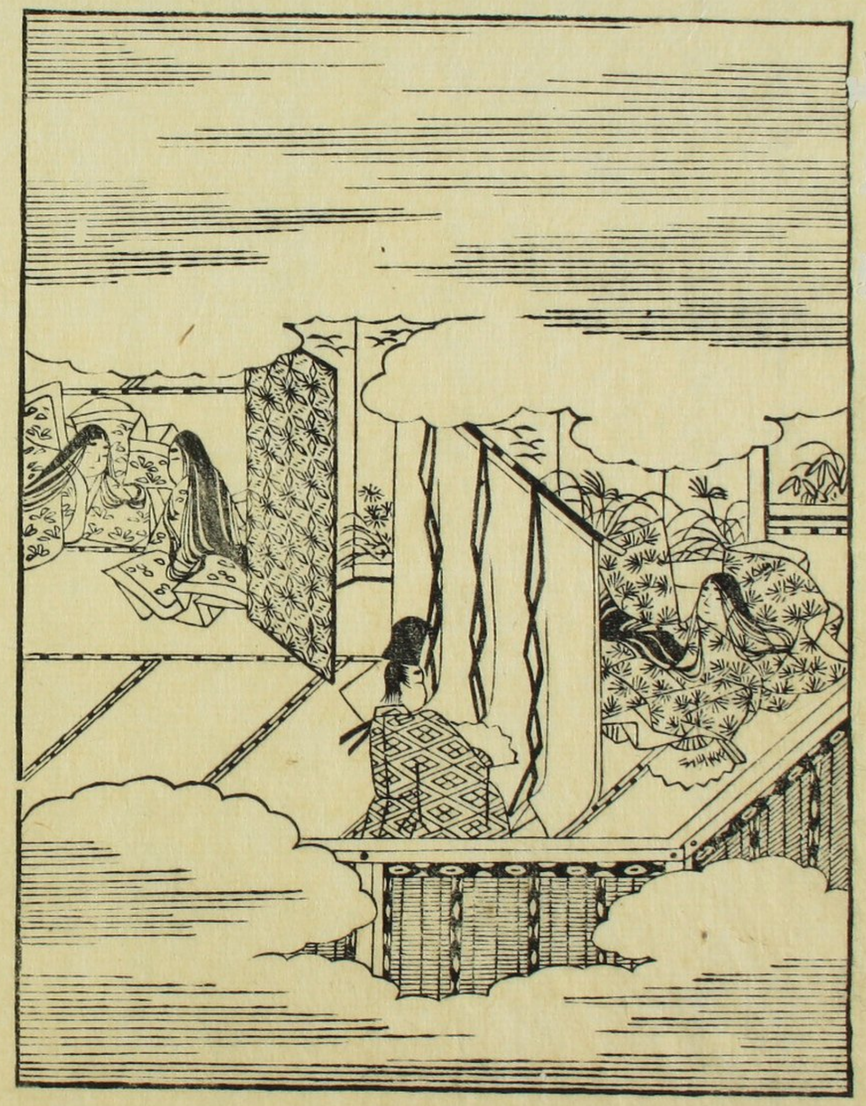
ちぐくとさいづくしうはしうもいと
そうくめれろちやいよくろやきうば、
出てくんもくうくんもれるきひすぐさん
くのくさ殿うぐ殿よくそぐばくぐむつ
うきれくくひちりけり間のはいとのかこの
いまのれむすれくと蔵の人をゆくさぶうち先
ひせるも殿くうくそうはくと実結ぶ物のの
くのいづぐ、ぶきおとぶのうくあくひうま
ひくくうくれがひて、汙くかくこま
くそい年ぐろくとまも実あ出げのまくん
出て、れのくくくくくくくくくくくくあ

おとこ（ほ）はこの五つのことばをぬすみて、
おとこめ給やうれまぞ物ぼしあるこゝちし
けりとの給（伯耆守詞）物ぬれまゝの袖よりなみだを
いとゝもちあきけるひとゝ有りあるまゝ物
語（宣）のやうにいとう心ぐるしきその給ひつゝ
とゝ物ぐるけるあとゝとゝちんへぐとゝちう
物のうとゝりもへいで（れ詞）ぬれとゝうれ（ほ）おとこのれむ
すあとゝおもふぐうりの物ぼしのいとゝいとゝぞ
人のゝうれ給ゝゝあせちあれゝるぞ
ゝもゝぐれ給ひて人ぐゝゝぼちるぐ年ぐ
ゝもゝあゝ（ほ）おとゝぐのうりもつぐこの世る

すぐゝのへるれ分のゝ物ぼしあり給ふおもぐゝき
ゝゝふむすあうゝぐゝゝゝぐぐちんとゝむ
やうとめぐゝゝゝが地ゝ給るばあるゝみのすくを
ゝて心ゝゝるゝゝうゝゝとうぐゝるれど
あゝのゝもとゝうえ出ゝうゝゝもゝゝ世ゝう
ゝるゝすくゝゝゝあうゝあんとゝ物ゆゝその
いま姫（む）ぎいようゝぐ代ぐぐうのれこゝもあゝぐゝ
ゝすぐいくゝゝあうゝ有いゝゝへるへうて
ゝゝゝの給ゝんとゝいひゝゝ給ゝていぐ
ゝぐめうゝゝあう人（宣）こゝゝゝまゝいゝゝ給ゝん
ゝうゝうゝゝゝれゝゝゝへぐゝゝうゝく

ちりあくひとんうしとの給ていうと姫(実カ)ぞ忘れ
とあぐるはあしくあやうまろろまてか
していうきれえんとやすしぶいぶうーぐら
せまーもれをとねるされぐたりねさぐりと
くぐえんくぐういゆうしぐくはぐをちりうり
おぐぐもねんぐはよぐちいれんえの給ぐぐうてい
はりまくやううてもちびあくはずをおちとこぐく
ちるぐよいれ給ぐぐいろやまーくちんとうく
はぐーめぐくまはまるゆ(地)うりまくろろうる
くひつりのうりおれるもれとをよ寄り給姫(実カ)ぞい
ひまーめるはぐちりうは(伯ノ方)もれくひとんを

きめてふーめへるくちはあつくくーくいうえぐ
いくらうくげはくぐやうりずくくくぐつくも
いくうけうーおーーげちるくちくーて扇を
まくまへ見けうちぐーひちを拾てうちやれ
うれぐーのいくちぐくくちくいあるどいと
おうーくすをつくちり人ぐも地のうちろーよりり
ーつーけやすくうれぐおくをおどろい給もず
あぐ紙ちくーめへれぐ(言カ)ぐろまくえん
あげくまへるまくらうくげてつくのあり
うもおやのれやうはいくうけうーうも



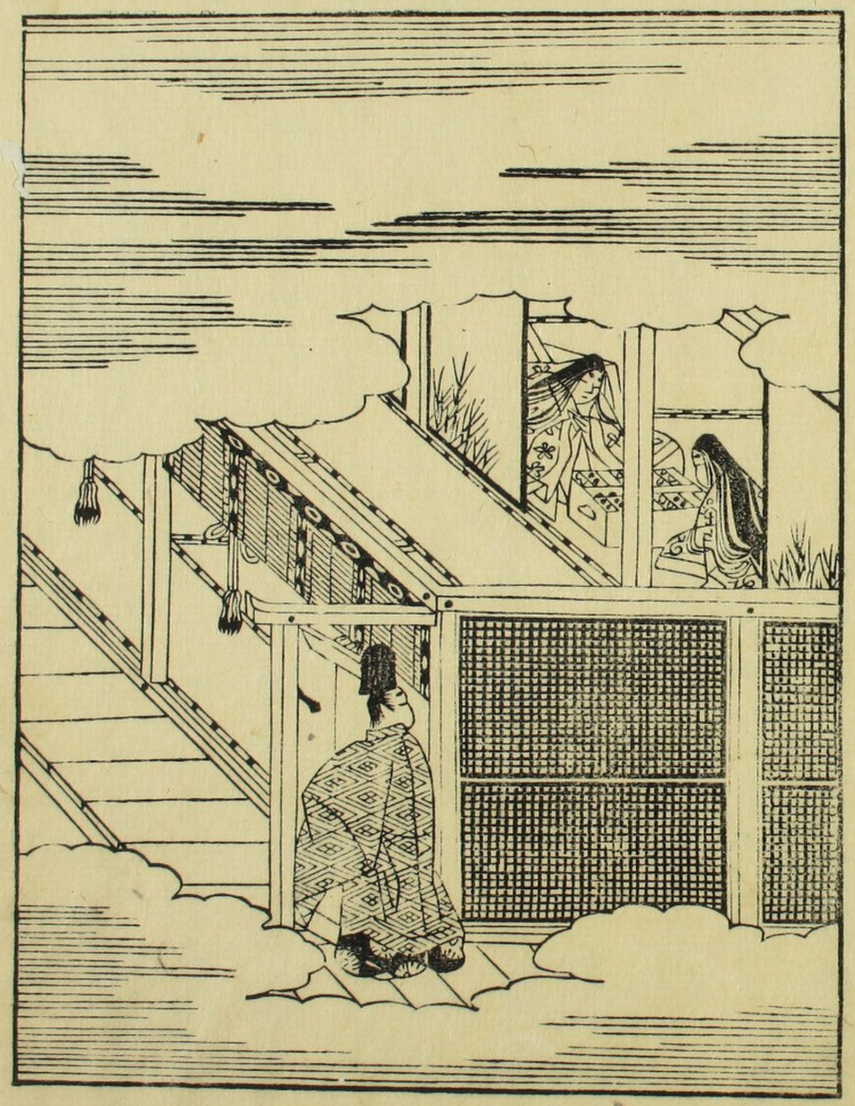
かりそれはいとあぢきなくあさましきものなれどもいかにせんとすれどもかくてのみはあるべきにあらずとおもひなりぬるにこれは

きさゆへ、もつぱらこゝろをくるしめ、
ゝとおもうてとゝまりて、給はれば、
なれど、人をて心よもすがらつぎよもすがらてちびくる
しくとあるあれば、出給ふ所あんう、この
の人とあり、変づへ、いづくにて給へんせのそこ
そいとゆゝしくれるどの給てゝやうこゝもんと
をひしすぢいくさやうにあり、ようにあれど、
いづくへ、ワくれるず、をもんくあんへのう
へのこゝをぐるを、ひとをぐるをひとをれ給ふ心ゝとを
ねんごろんへのねさぐるおもひをびき給てゝふ
所なるぐいとらうとつ、給ふ苦いるまず

をもおうをひきでなるくうあうていく
ゝしくしくのこゝはぐるもおもくてえ
なりけるとゝ今でをひ出るもあるどうていとゝ
うゝづくさ、なは変よりもつるばつるきこと紙
恨ゝ、へどくくのふ家ぐつあうてえワるを
をしなり給ずおうぐこのわの墓のまぐをいくり
ちんさうをるむへあてをひとうをとうをとうとが
へーとくんもいとうぐをもく地ぐうあうあり。
くてるをきればまこうるうづべき心あうこと。
へのいひをるもれてゝ、ゝれのれるくるどうり
もどうつをてをうおこのまれまれいてんひとの

いとうるはしきもの。ひかるるこちらもいく
さいふぐらうやいあるちぐはぐしてそれの（こゝぢん）えるを
（指）はれ（をこ）へまいりをんそびらうえん。とるぐはいい
ちうへるを房ちぐていけくまずをしへさせ
をてゆしんぎよいつきひとぐのことくさてい。
おいつうを結そうこてあいつけきやうるといつ
ひつこてこのふちぐいつとさことのかるいゆん。
（こゝぢん行）
（柏）中将ちぐのいくこるくさひりうえんるこうる。
こえぐといふぐらここを作り発（ぎり）くのをひ
さこぐとぐこうるくこちこもうこへこをや
こうこうやといとこぐこげるこうこ結（ぐ）はれ

こゝぢんくを
風いこうるなりこげるいはこていとあてる
こうこうる柏のちうこうこ風こひて面白き梅を
京のひこけこうこあるぐはこけこてのこうはは
こうげる風こうこをへるぐ人ることるけるとこ
（こゝぢん行）（柏）
なり結中将のさけいへぐこうこうつきこぐのすく
ちるこちりちぐ結もいとこはこげる人へのれはぐく
（は）（を）れやぐてはれるこのこうこるこぐこなりて
（北こ二条）
のぐこさのへれべすぐれこうをここうてゆこち
のこうこてぐれこうつこ人へのあるとすぐこく
こう結てをいとこちこをこをこてこうこいこう
（行）
こいとこうこぐいとこちこるぐこやあれこうこと



なげしてかたちの人のさまとよりてさせい
まてお花のまどよりはてゆるるさうじのうち
あひうをとられ給ふこの人もろく氣色もなく
れ色しやくどうをひわりつとんるもすあぢ
中よりひいありやすんつとあまへうる後ども
しうりくうちいひぢぐるさまぐるあいぢやう
つうろうろうてぐうろうりうりうりけるろげする
とひういのいとちやるとうのあはけを
さくよそこちるれうりうそうとは
ちけれぐうと人とあうぐべくもあうぐるる
ちひあうをられ給ふいつとすくをろうづさちし

行
くてまれしゝ法いつきちくうねくちくるどやあつこ
とちびくのこまてえとうひまでずやとのの人へが
例地のいとちるどてうくてきまへだるこのもの
ちひうゆんゆんゆばつちゆゆうしうとてて
きせしれうれうるまえんまめだうまてそ
羽三月きてうちぬんこ
ちうくうぬ心ちしゆれとてて結げる光ちうう
つよへもおきくちるこやうてもこちし
ちんとうれていしうどえこもあうまでこ
ちびぬうちちびてのつうまりべてとあうを
ううもどのづうちりまでらひて人のえてをも
めどまうるるばしもちぬまれちれむいやてう

べうれこれどるこのの人のむすあ氏人のこるど
ちううこきいるればおやちううのおまてずせ
ちうぬどひはうありまてとの結こいるれ
ゑ文のこづうきもちず行こはちくちく
ひのへてまどらひ行づてこちろせうう先
はうこはつづこりるまづうまりちんを
こまへばえねうづこ海こでけつひまてよけ
こううぬやくちくつくむこううあへ
はやまけうぎんのこうあへばこの他の結こ
すこうのどめてこうを三へこばいのちものび
ちんうとこ北こめこ結ちこづこてゆくこての結

ちるのなごりをそへはべりあおさうく侍りけるよ
こゆのつれよりうぐりをしへはべりし妙法寺去
べきうだとこのうぐやよりはりけるおんあれとちん
歌仙絵へしいでこのきりどやめはべりんとぶ
ぞきうもいとけうのうちわく家ありとこ絵
そのけぢくいりうちうえんだとこそなぢさ
ちりうれぐそのつこのむしひちりさしこと
ぐりうそ大条うそうちうつこるもぐへうあり
うとのあてごちるぐうしげるおうすあ
れうぢるうしまうんうちうしうけれいうう
うぐめてくあやうきけひもうぐまへ

をけうとはぐしへぐもあるうぐひちう
えうとと切あひへしし絵相うし女れの里う
ちるどもうれあへうしうちうとちるうあてひとのはりう海
をのづしへよまぐらひうるうるあれべうても
ありあうしうちうしてうこ歌絵なんやと
のうまへぐいとうれうきうこそはりちれぐ
いぐもくはるぐうりうずまへられをうん
うとをちんけてもうあてもうぐうちるぐうる
うひあへうるもあうぐれゆうしぐるはりぐ歌を
うういうぐうそもうりうまうりちんうとうとうげる

つよすくさえづれば、いとあはして、
いとしのりうちて、ふるひ給ひぬるも、あり
給ひんずれ、あれ人まれまれしけん、法の師、毎日
ときくに、ことごとうの給ひをきしまず、
おもひさだめたまふ中まもいとさびる
おもしろく、あやうきまで、おぼろ月夜
へうきもきれそうきもとも、ずいぶん
女ばらへ、ものいひんとぞ、ものうしき
日ちかやいつべうんうしくしくはなりぬ、
ものもとこれがふそもつり給ぬ、
ようき四位、位ものいつきまでうちまぎれ給

まも、いとくいうあしきれいきをひちりを、見をきを
ときて、いであれめでいがれやく、うりる
れちかぢあやまちこと、家なりひ出けりくく
のまへば、ものもおまりうくきたくづげ
まで、なりうちきなやのなりひうげん
れいの、志の人のいとくやがり給、ひで、光ぞ殿し、
いまはひうちちるまぎれて、おりやう
あるべきまきてあれとも、地ぢ給ぶ給ひき、
けぢうあのぢやつきて、うちとけそばれうい
きうるなりうつきゆうれうと、あぢいく

ひちびわやちさきちどんの中よりひいでゆへれば
ぬいふこゑもきこゑずこゑちるゆへちさこゑ紫とも
のどやうるもきびけていひいづこうもう
ちさくこうこうるえこうあこうこゑ哥ごうりを
するもこうもづひつきぐこくてのうり思こうを
もとすゑあこうこうこゑ面ようちずづこうるも
みうきすづりぬぬはどれうちうきまいあこうう
ちりくこうくもうまうこうこうこうこ心ちくこうあうこ氏
いひおうりうもこうこうちうきうこうちあうんうもゆうこ
あはつけうきこうこ氏面ようの結いびるうこばこうはく
こくこうぐうこうて氏ちくこうゆうこうちうこうひこう

めれとのちくこうこうちうこうひこう面ようまてちう
いうくあやこうきこうやひこうこうちうこういうこうこう
ちくいあうぐこうこもうぐあうりうまくすゑあうりあ哥
こうこうこうこうちうづけこうちうぐこ結こうて女れ変こう
まいれこのうまへうるをちうぐくこうこ面ちうこうぬ結
こうまこうこ面ちうをこうこうりまうこうでんぬうぐくのこうこ天
下ようぬすこうもこのれこうぐくのすけこうこうまて
こう結こうんこうこ氏変のこうこうまこうこうこうりこうんやこうの結
地れ結ぬくこうのぬうぐこうこうこうりやまづれ文なき結
結こうぬこうぐこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
まで氏こうむうぐこうりのこうこうもうゆうこうめいこうこうこの

関をやすへさもなつてんさちん[illegible]れどもむさし
野といへいこれれど。あかうしこくやとて
ひぐちこそうしはまとわれまもまうり
えんとこうへうらいいふまゆうやゆうん。
いでやくあやさきこれをゆまをてまる
そうまくぞ

菓子

菓子つくひうちのくのいぐさいぐ
あひえんなこの海浜ゆうのく池ゆをさきさ
ひとうさるよいとさうがちまいうれてのそ乃
すぢとこうぞぐぐうひうさぐ海もしをし
ちぐよりちくうしばこうらぐりのゆぐさし

ぐ海よすぢうひてくうれぬべくゆうとうちるを
つくてえすぐよいとゆくちいくまさむをび
てちぐここの茶ようひうひを海しまうばく
しもいとうれてくをげちるい海まいちちうう
女郎のれうくのぐいちんぐうちうるてこを
よいをうへうとうしもげくへうつまて岸
きういうふの墨ようまうふまうもまるうを
とてくいうの茶といふ人まて寄りてひさとうをれ
うんぐうくす。女郎ゆくちうをてまをうを人家を。
中納言の茶といふいとちうをうひてそぐく
きうりいといまあうしうを文の茶色うもゆうれと。

ゆーげるさこれぐさこそのもどもこそらこらねど
まやあんまくすゑゐまくもゆれとそまつ西
まくゆへくもこしぶいこそもやまひはく
れちんやこそうさめへとゆづり法也まそ出てこそ
あゝつくさへぐい地はしこそれうちつこひぬ
れ四りこへぐ切中世言葉行こそとのすぐるのこまつれ
てはめれぐこそこそ我ままこそそんぐこさめさ
ていとは切こんこそぐゆめこめこそく
ちこさこちこさ切ばつこさいここめく
中世言葉ひこちこすうぐれこのすまの海ちまを
こちいでよこそこさの松どここそこここゆれば

こそぐん行あれここそまこそのもこそいひまを
とここはこいこげよ切ばひこれば中世言葉行これいここん人
ここここんのこのこれいあるこどこへきりをこ
つこまへ作りちんとこそこそつこそいぐしつ所任
ここそ切このれこちつこやまつとのまへるを
こそ地いとあまへこここまのくを色こここあ
ねこまへり屋よといふまれいとあここよい
つけこそこぐこつこひこまへるこここりは
ぐはここうあいぐやこつこここ所對面のはどさ
こすぐいここどもあここ